

## 1 研究の趣旨

本研究の目的は、様々な手段を用いて子どもたちに情報モラル・情報リテラシーを身に付けさせ、ネット社会においてインターネットを安全・安心に活用できるよう育てることである。以前の情報モラルの研究では、情報モラルパッケージ教材や保護者向け情報モラルリーフレットを提供し、教員や児童・生徒、保護者に対する情報モラル教育を支援してきた。しかし、ここ数年、スマートフォンだけでなく様々なインターネット端末の普及により、大人だけでなく子どもたちも手軽にインターネットができるようになった。それにより、SNS やゲームでのネットトラブルやネットいじめによる問題も増加してきた。また、インターネット端末の利用は年々低年齢化しており、子どもたちが自覚しないまま加害者や被害者になってしまう現状もある。

よって、教員や保護者は、子どもたちを取り巻くインターネット環境やインターネット利用状況を把握し、学校や家庭での情報モラル教育を通して、子どもたちの情報モラル・情報リテラシーの向上をめざす必要がある。本研究では、研究協力校での実態調査や授業等への支援を行い、「教員の指導力向上」「生徒主体の活動」「保護者への啓発活動」を通して、情報モラル・情報リテラシーの定着を図っていく。

## 2 研究の概要

### (1) 教員の指導力向上

#### ① 実態把握

- 安心協ILASテスト※1による情報リテラシーの把握

#### ② 指導等への支援

- 各教科の授業での情報モラル指導への支援
- 年間指導計画作成への支援
- ソーシャルメディアポリシー作成への支援

### (2) 生徒主体の活動

#### ① 実態把握

- 安心協ILASテストによる情報リテラシーの把握

#### ② 生徒主体活動例の提示

- 情報モラルセキュリティ標語の出品
- 情報モラル啓発週間の実施

### (3) 保護者への啓発活動

- 講演会の実施

#### ※1 安心協ILASテスト

総務省が青少年のネットリテラシー向上のための前提として、インターネット上の危険・脅威に対応するための能力とその現状を可視化するため、その能力を数値化するテストとしてILAS (Internet Literacy Assessment indicator for Students / 青少年がインターネットを安全に安心して活用するためのリテラシー指標)を開発した。

安心ネットづくり促進協議会(以下、安心協)では、総務省のILASを援用し、小学生から大人まで実施可能な平易で短時間で回答できる設問として「安心協ILAS」を開発した。

## 3 成果と今後の課題

### (1) 成果

- ① 研究協力校においてインターネット利用に関する調査と安心協ILASテストを実施し、教員・生徒のネット利用に関する実態や情報リテラシーを把握した。このことは、「各教科での情報モラルの指導」の実施に向けて、教員の情報モラル指導に対する意識や障害を分析することにつながった。
- ② 独立行政法人情報処理推進機構で実施している情報モラルセキュリティ「標語」に生徒作品を出品し、生徒自ら情報モラルの意識を高めるきっかけとなった。
- ③ 子どもにインターネット端末を持たせるのは保護者である。その保護者を対象に、インターネットの危険性や保護者の役割等についての講演会を長期休業前に実施することができた。

### (2) 課題

- ① 生徒の情報モラルに関する知識を高めさせるだけでなく、得られた知識をどのように行動につなげていくのか課題である。
- ② 情報モラルの指導を行う際、教員が必要とするのは最新の情報である。その情報を、教育センターとしてどのように発信し学校現場へ届けるのか、発信する内容や方法を検討する必要がある。